

MEDICATED CREAM AND ITS PRODUCTION

特許公報番号 JP4356423 (A)
公報発行日 1992-12-10
発明者: SAITO MASAO
出願人 SAITO MASAO
分類:
—国際: A61K8/96; A61K8/00; A61K8/31; A61K8/97; A61K36/00;
A61P17/00; A61P29/00; A61P37/08; A61Q19/00; A61K8/96;
A61K8/00; A61K8/30; A61K36/00; A61P17/00; A61P29/00;
A61P37/00; A61Q19/00; (IPC1-7): A61K7/00; A61K7/48; A61K35/78
—欧州:
出願番号 JP19910156083 19910531
優先権主張番号: JP19910156083 19910531

他の公開

JP2609563 (B2)

要約 JP 4356423 (A)

PURPOSE: To obtain a medicated cream, containing an extract substance of Glycyrrhizae Radix, an extract solution of Sophora angustifolia Sieb. et Zucc. and further, as necessary, an extract solution of Scutellariae Radix and effective for allergic diseases, especially for dermatitides induced by the contact with materials such as metals, cosmetics or Japanese lacquer. CONSTITUTION: A medicated cream containing 0.05-0.5% extract substance of Glycyrrhizae Radix consisting mainly of glycyrrhetic acid, 1-10% extract solution of Sophora angustifolia Sieb. et Zucc. and further, as necessary, 1-10% extract solution of Scutellariae Radix. Synergistic effects are exhibited by combining respective abilities of antinflammatory action of the extract substance from the Glycyrrhizae Radix, ulcerogenic preventive ability matrine which is a main alkaloid in the extract solution of the Sophora angustifolia Sieb. et Zucc., responding ability to skin infectious diseases antinflammatory, antiallergic and suppressing actions on atopic type reaction of the extract solution of the Scutellariae Radix as a flavonoid, together with their individual effects.

esp@cenet データベースから供給されたデータ — Worldwide

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平4-356423

(43)公開日 平成4年(1992)12月10日

(51)Int.Cl. ⁵	識別記号	序内整理番号	F I	技術表示箇所
A 6 1 K 35/78 7/00	A B E	7180-4C		
	K	7327-4C		
	A B F	W 7327-4C		
35/78	A D A	W 7180-4C		
// A 6 1 K 7/48		9051-4C		

審査請求 未請求 請求項の数3(全4頁)

(21)出願番号	特願平3-156083	(71)出願人	391014505 斎藤 政夫 神奈川県横浜市港南区港南台6-27-15
(22)出願日	平成3年(1991)5月31日	(72)発明者	斎藤 政夫 横浜市港南区港南台6-27-15

(54)【発明の名称】 薬用クリーム及びその製造方法

(57)【要約】

【構成】 甘草抽出体を0.05~0.5%、クララ抽出液を1~10%を含有させる薬用クリーム。

【効果】 皮膚炎に対する効果が大である。

1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 グルチルリチン酸を主体とする甘草抽出体を0.05~0.5%、クララ抽出液を1~10%を含有させることを特徴とする薬用クリーム。

【請求項2】 オウゴン抽出液を1~10%を含有させることを特徴とする請求項1に記載の薬用クリーム。

【請求項3】 基材のスクワラン、ワセリン、流動パラフィンを加熱して混和溶解し、これに防腐剤を含む熱精製水を加えて乳化し、これに甘草抽出体及びクララ抽出液、或いは又オウゴン抽出液を加えた後、攪拌しながら冷却させることを特徴とする薬用クリームの製造方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は薬用クリームに関し、アレルギー、又、特に金属、化粧品、ウルシ等の接触性皮膚炎に有効な薬用クリームに関するものである。

【0002】

【従来の技術】 抗体が血清に認められず、細胞によって仲介されるアレルギー反応をIV型のアレルギー反応と呼ぶが、細菌、ウイルスカビ等の感染に伴う反応や、金属、化粧品、ウルシ等の接触性皮膚炎などがこれに属する。

【0003】 然して、細菌等の感染に伴う反応の場合は、細菌等の除去により対応策はあるが、アレルギー、接触性皮膚炎には適当な対応治療法はステロイドホルモン以外には提案されていない。

【0004】 然して、甘草根は古くから消炎効果がある薬草としてしられており、その有効成分であるグリチルリチン酸類は抗炎、抗アレルギー、抗消化性潰瘍作用などのため、急性、慢性の皮膚炎の他、アフタ性口内炎などに効果があるとして基礎化粧品や歯磨中に添加されているものがある。

【0005】 クララはmatrineを主アルカロイドとするもので、解熱、利水、温補の薬物とされ、漢方に用いられ、民間では健医、強壮、消炎、利尿、下痢止め、又煎じて服用、又、煎液は湿疹、水虫などの皮膚疾患、口内炎等に用いられる。

【0006】 漢方におけるオウゴンの作用は「炎症を去り、水毒を除き、清涼解熱と利尿の効がある」(新本草備要)とされている。オウゴンの一般薬理作用については緩下作用、利尿作用があることは確認されている。又、オウゴンの成分がフラボノイドであるところから所謂ビタミンP様活性として抗炎症作用が調べられ、アスピリンに匹敵する効果が認められている。更に、オウゴンの抗アレルギー作用について、感作したモルモットの摘出回腸でSchultz-Dale反応を見ると強い抑制効果が認められる。

【0007】

【発明が解決しようとする課題】 しかしこれらは従来單独にしかも漢方薬として使用され、所謂煎じ薬として使

2

用されるに過ぎず、その一般的薬理については殆ど実験段階であり、これらを組み合わせてその相乗効果をもたらす使用方法は従来全く行われていなかった。

【0008】

【課題を解決するための手段】 そこで本発明に於ては、皮膚障害の治癒に作用があり、抗アレルギー作用を有するトリペノイト配糖体を6~14%含有し、その代表成分glycyrrhizinやglucuride等数多くのサポゲニン、多数のフラボノイド、フラボン類を利用できる甘草を配し、主アルカロイドmatrineの潰瘍発生防止作用を有し、8~30%煎液は各種皮膚白癬菌やその他真菌に対し有効であるとされるクララを合わせて使用し、更に必要に応じてベルベリンを主成分とする生薬で、ベルベリンで代表される薬効と明らかに相違し、又、漢方における用法も異なるオウゴンを、その成分を有効に生かして使用し、これに特に接触性皮膚炎に有効な薬用クリームを仕立てんとするもので、グリチルリチン酸を主体とする甘草抽出体を0.05~0.5%、クララ抽出液を0.1~10%、更にはオウゴン抽出液を1~10%を含有させることを特徴とする薬用クリームと、基材のスクワラン、ワセリン、流動パラフィンを加熱して混和溶解し、これに防腐剤を含む熱精製水を加えて乳化し、これに甘草抽出体及びクララ抽出液、或いは又オウゴン抽出液を加えた後、攪拌しながら冷却させることを特徴とする薬用クリームの製造方法を提案せんとするものである。

【0009】

【実施例】 以下、実施例により本発明を詳細に説明する。先ず、乳化剤としてモノステアリン酸グリセリン、ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油、防腐剤としてパラオキシ安息香酸ブチルを加熱して混和溶解する。これに防腐剤パラオキシ安息香酸メチルを溶解した熱精製水を加えて乳化する。これに甘草エキスであるが、glycyrrhizinやそのゲニンのglycyrrhetic acidは副腎皮質の水電解質や糖質ホルモン様作用、エストロゲン作用、鎮咳作用、抗炎症作用、抗アレルギー作用など数多くの薬理作用があるが、これを粋原基として0.05~0.5%まで含有させる。又、酸化防止剤としてトコフェロール就中酢酸-d₁-α-トコフェロールを適量加えて冷却する。

【0010】 クララはマメ化のsophora flavevens Aittonの根をそのまま50v/v%エタノール溶液で抽出したものに1.3-ブチレングリコールと精製水の混液を加えたもので、アルカロイドの主成分である(+)-matrine、複成分たる(+)-oxyatrine等を含有し、又フラボノ類としてXanthoumol, isoranthohamol等を含有する。これらは皮膚疾患、皮膚感染症、あせも、ただれ、陰部搔痒症等に用いられる。又、

3

蛇床子と合せると止痒効果が強まる。該クララ抽出液を全体の1~10%含有させる。

【0011】次にオウゴンは主成分のフラボノイドは baicalin 4.3%, baicalein, wogonin 0.5%, wogonin glucuronide, oroxylin A、その他ステロイド、糖類が存在するオウゴンの抗アレルギー作用の有効成分は baicalin であり、その glucon の baicalein はモル比で baicalin と同程度の mediator 遊離抑制作用を示したので活性構造は baicalein 部分にある。baicalein は anaphylaxis 型反応を抑制するのみならず、reagin によって惹起されるアトピー型の反応も抑制する。

【0012】又、アトピー型抑制剤である DSCG は baicalein と共通の chromone 骨格を持つが、DSCG は reagin による反応しか押さえられないのに対し、baicalein は non-reagin による反応をも押さえることが出来る。

【0013】以上のことから baicalein がアレルギー反応の発現の機序のうち従来の薬物では及ばない作用点に作用することが解る。又、オウゴンは赤痢菌、チフス菌、綠膿菌、ブドウ球菌、溶血性レンサ球菌等に対し抗菌作用があるとする主張がある。

【0014】これらオウゴンは日局オウゴンのエタノールによる抽出物を 1.3-ブチレングリコールに溶解したもので baicalin 0.15~2.5w/v% 含むが、これを全体の 1~10% 加える。

【0015】前述の乳化剤に甘草エキス就中グリチルリチン酸ジカリウム、酸化防止剤の酢酸-d1- α -トコフェロール及びクララ抽出液を加えた後、攪拌しながら冷却し、製品を得る。

【0016】〔実施例1〕

グリチルリチン酸ジカリウム	0.05%
酢酸-d1- α -トコフェロール	0.05%
スクワラン	10.0%
ワセリン	25.0%
流動パラフィン	15.0%
ベヘニルアルコール	2.0%
テトラオレイン酸ポリオキシエチレンソルビット (60B.0)	2.0%
モノステアリン酸グリセリン	7.0%
ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油	5.0%
パラオキシ安息香酸ブチル	適量
クララ抽出液	10.0%
精製水	残

【0017】〔実施例2〕

グリチルリチン酸ジカリウム	0.08%
酢酸-d1- α -トコフェロール	0.05%
スクワラン	10.0%
ワセリン	25.0%

流動パラフィン	15.0%
ベヘニルアルコール	2.0%
テトラオレイン酸ポリオキシエチレンソルビット (60B.0)	2.0%
モノステアリン酸グリセリン	6.0%
ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油	6.0%
パラオキシ安息香酸ブチル	適量
オウゴン抽出液	1.0%
クララ抽出液	10.0%
パラオキシ安息香酸メチル	適量
精製水	残

上記のクリームは止痒効果が優れていることが判明した。

【0018】各実用例について洗髪シャンプー、リンス毎に毎日接触しており、且つ、皮膚に炎症のある美容師多数人に使用して頂いた所、その炎症にもよるが、早い人で数日、遅い人でも数週間以内に痒みがとれ、炎症が治った、又は軽くなった。各実用例間の差については症例が多く、判明するのに時間が必要である。

【0019】下記に実用例1の使用例の効果を示す。実施例1による手皮膚炎に対する有効率。

症例数	著効(%)	有効(%)	無効(%)	有効率
20	11 (55%)	6 (30%)	2 (15%)	85%

【0020】又、各実用例ともアトピー性皮膚炎に対し有効性が高いことが判明した。アレルゲンは単一ではなく複合的なものであるため、複合的な本品によって対症効果がでる。又、これら実用例に対し、マレイン酸クロフェニラミンを抗ヒスタミンとして配合してみたが、痒みの刺激が中和されて有効であることが判かった。

【0021】実用例2によるアトピー性皮膚炎の汗疹性苔癬化型に対する有効率を示す。下段は抗ヒスタミン配合の使用例を示す。

症例数	著効(%)	有効(%)	無効(%)	有効率
4	0	3 (75.0%)	1 (25.0%)	75%
2	0	2 (100%)	0	100%

【0022】

【発明の効果】上記の如き本発明によれば、グリチルリチン酸を主体とする甘草抽出体を 0.05~0.5%、クララ抽出液を 1~10%、又更にオウゴン抽出液を 1~10% を含有させた薬用クリームを、基材のスクワラン

5

ン、ワセリン、流動パラフィンを加熱して混和溶解し、これに防腐剤を含む熱精製水を加えて乳化し、これに甘草抽出体及びクララ抽出液、或いは又オウゴン抽出液を加えた後、攪拌しながら冷却させて製造するようにしたので、甘草エキスの有する抗炎症作用、クララ抽出液の有する主アルカロイドのマトリンの潰瘍発生予防能力、

6

皮膚感染症の対応力、オウゴン抽出液のフラボノイドとしての抗炎症作用、抗アレルギー作用、アトピー型反応の抑制作用等の夫々の能力が組合わざり、夫々の効果と共に相乗効果を挙げ、極めて優れた皮膚用クリームを提供することが出来る。